Tokyo OT
2023 November No.213

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部　　発行：会長　田中勇次郎

地域へ出て作業療法を楽しみませんか

河北医療財団
多摩事業部　桜ヶ丘
いきいき元気センター
今泉　幸子

私が作業療法士になって33年目となりましたが作業療法の仕事に飽きたと思ったことは一度もありません。これは後輩や養成校の学生さんへの講義など、何かにつけて私が言い続けていることです。作業療法という仕事はそれだけ広がりがあり奥が深く何でもアリのおもしろい仕事だと思っています。私は同法人でずっと働き続けてきたのですが、そのおかげでこの地域の様々な仕事に関わらせていただきました。病院での入院･外来、老人保健施設、デイケア、デイサービス、訪問リハ、そして介護予防に2012年から従事しています。法人では市町村の介護予防事業を2003年から受託してきたのですが、リハ職としては異例のセンター長として異動したのが始まりです。ジブリ映画の「耳をすませば」のロケ地にある一軒家への異動だったので当初は不安でしたが地域の方々に温かく迎えてもらいました。2016年からは総合事業に則って通所Cに移行し現在に至っています。また2018年からは『ＡＳＮリハビリテーションセンター』と銘打って広義のリハビリテーションに取り組む部門が始まり、そのセンター長も兼務しています。この部門はこれまでPT・OTで構成されていましたが、今年度からはOT・PT・看護師・ケアマネージャー・栄養士・介護福祉士から成る多職種協働チームで「知る・気づく・取り組む」の３本柱を掲げ取り組んでいます。今年度は特に「取り組む」、つまりフレイル予防生活への行動変容を促し習慣化させていくことに力を入れています。しかし、習慣を変え新しいことを始めるにはパワーが要りますので、後ろや横から支援し、プラス『楽しいこと』が必要であると感じています。リハセンターの業務として、地域リハ活動支援事業への派遣調整も行っているのですが、出張ボッチャ指導という派遣メニューを用意していて、初めてやる方々も楽しんでいます。また、「笑いヨガ」を地域に出張した際にちょっとやると大好評です。昨日、通所Ｃの卒業生が立ち上げたサークルの半年後訪問をしましたが、体操の他に栄養の勉強をしたりお菓子をつまみ雑談をしたりして、楽しみながら継続できていました。フレイル予防のために体操をやらなくちゃ、よりも楽しいことをやっているうちに結果、フレイル予防になっていたというのが理想です。私たち作業療法士は楽しませることや「つなぐ」ことが得意な職種です。地域に出てこんな仕事もしてみたいなと思っていただけたら幸いです。

CONTENTS

◆地域へ出て作業療法を楽しみませんか…❶
◆国際福祉機器展（HCR）2023への都士会参加での雑感…❷
◆国際福祉機器展HCR　こどもひろば活動報告…❷～❸
◆第50回 国際医療福祉機器展H.C.R.2023 福祉機器相談コーナー 報告…❹
◆教育部からのお知らせ…❹
◆子ども委員会活動報告…❺
◆いざ、地域づくりサポーター、地域活動へ…❺
◆認知症の人と家族の生活支援委員会活動報告…❻
◆認知症にやさしい本の紹介　VOL.41…❻
◆保険部　Letter ～運動量増加機器の保険適用について～…❼
◆東京都作業療法士会福祉用具部主催《福祉用具部研修会のご案内》…❼
◆レーシングシミュレーターの紹介…❽
◆就労支援委員会からのお知らせ…❽
◆災害派遣精神医療チームDPATについて…❾
◆ブロック活動のお知らせ…❿
◆事業部活動報告…⓬
◆編集後記…⓬

国際福祉機器展（HCR）2023への都士会参加での雑感

会長　田中勇次郎

今年のHCRに都士会は二つの企画コーナーに参加しました。

一つは、HCR主催者の一般財団法人保健福祉広報協会がOT協会に依頼した福祉用具相談コーナーです。これは10年以上継続して引き受けているもので、HCR開催期間の３日間、都士会、神奈川県士会、千葉県士会で相談員を派遣して対応しています。今年も同様に実施しました。参加した相談員は士会活動としてではなく、OT協会から委嘱された協会員としての活動になりますが、相談員の人選、業務内容の伝達、主催者との連絡・調整など、毎回のことですが都士会福祉用具部が主体になり実施しました。

今年の相談コーナーの印象ですが、共同エリアで開催しているNPO法人「自助具の部屋」と区切りがなく、メリハリない感じを持ちました。相談コーナーのメンバーは、OT協会のロゴを入れた衣装を着るなど、考えても良いように感じました。

もう一つは、こども広場のコミュニケーション機器や学習支援機器の展示＆紹介コーナーの相談員としての参加です。これは東京都障害者IT地域支援センターからの依頼で、一日３名、私以外の一日２名の計６名はスポーツ支援委員会（仮）から派遣しました。

子ども広場のこのコーナーは、東京都福祉局障害施策推進部地域生活支援課の協力の基に確保されたスペースで、その担当課長や課長代理と話す機会が持てました。彼らから、「障害児・者のICT機器活用に関する区市町村からの相談を都士会が受けてくれるか？」と聞かれたので、「都士会ホームページに問い合わせページがあるので、そこに記載してもらえればよい。」と答えました。この質問を受けた理由は、区市町村の担当者に障害児・者のICT機器活用に関する知識がなく、取り扱い業者に連絡して、その後の対応を任せっきりになってしまい、身障日生具として給付した「情報・通信支援用具」など使えずに無駄になっている現状があり、この改善を図りたいという思いからのようでした。このような話は、東京都障害者IT地域支援センターからも来ていたので、今後３者で話し合いを持つことになると思います。

また、子ども広場で共に活動した一般社団法人日本支援技術協会とは、DAA（デジタルアクセシビリティアドバイザー）育成事業に関わっており、「障害者等のデジタル活用を支援する人材の育成と活躍の場づくり」を検討しています。DAAの資格取得試験テキストのスタンダード編には「作業療法士による支援技術の実践例」がありますので、この資格を取得するOTが増えることを期待しています。

その他、気付かされたこととして、このコーナーを訪れたOT養成校学生から、「当事者と接する機会を作りたい。ボランティア等の情報が欲しい。」と要望され、都士会としてボランティア募集の情報を収取し、それを養成校に伝え、学生が当事者や当事者家族と触れ合える機会を作ることができれば、学生が士会活動に関心を持つきっかけになるように感じました。

福祉用具相談コーナーを訪れた他県のＯＴからは、「自身が所属する士会に福祉用具に関する活動部署がないので都士会に加入したい。」という希望を述べられました。もちろん「歓迎します。」と答えましたが、都士会員を増やす手段に「これもあるな？」と感じました。他士会に対して都士会活動内容のアピール強化を考えようと思います。

国際福祉機器展HCR　こどもひろば活動報告

東京YMCA医療福祉専門学校　作業療法学科　温井　恵

４年ぶりに通常開催となった国際福祉機器展のこどもひろばにて、福祉用具、学習推進アプリの紹介、作業療法の紹介をして参りました。ブースは連日盛況で３日間で７名の作業療法士が連携して参加しました。

当ブースはお子様に特化した福祉用具や自助具、学習推進アプリやeスポーツ、ゲームに繋がる媒体の紹介から、医療的ケアの必要なお子さんの住宅改修や福祉用具展示など様々な出展がありました。実際はお子様のみならず、聴覚に援助の必要な方、高齢者にも適した福祉用具やアプリケーションも多くあり、来場者は当事者から当事者家族、通信機器やIT関連の一般企業や医療専門職、教育現場と幅広い方々からご質問やお問い合わせをいただきました。

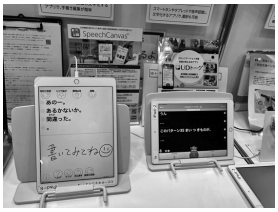
ブース内は来場者から見て分かりやすく、「学ぶ・育むコーナー」「遊ぶ・楽しむコーナー」「伝える・伝わるコーナー」と分類されており、展示のみならず、デジタル機器を活用した事例のミニセミナーとして帝京大

学教育学部教授の金森克浩氏、国立高専機構熊本高等専門学校特命客員教授の福島勇氏、（株）アシテック・オコ代表取締役であり作業療法士の小林大作氏の実践報告会もあるという盛りだくさんのブースとなりました。また、一般社団法人日本支援技術協会によるICTアクセシビリティアドバイザー認定試験の紹介もあり、今後はICT機器の理解のみならず、支援技術を身に付ける人材育成に対しての取り組みも進んでいる事を間近で感じることが出来ました。我々作業療法士も特に身体領域、発達領域に関してはスイッチの利用を治療の中で行う事例もありますが、全ての対象者に適応となるものではないため、現場によっては実践経験が出来ていない方々もいるかと思われます。また、個々の作業療法士が様々なスイッチやICTを対象者に取り入れても、実践事例を集約し、情報を共有出来る・連携出来るような組織が少ない事も実情かと思います。医療のみならず、地域への活躍も望まれているこれから、対象者にスイッチ・ICT機器を導入する際に相談や連携がとれる仕組み作り、個々の作業療法士も知識として持ち合わせたい分野であると改めて感じました。

都士会担当のブースでは「伝える・伝わるコーナー」として主にVOCA、聴覚障害の方が適応となるアプリケーションの紹介とともに協会のアピールブースとなるよう取り組みました。コミュニケーションに課題のあるお子様、肢体不自由に限らず聴覚障害に対する療育相談やアプリケーションの適応、学習アプリの紹介や活用方法などの問い合わせが多く、ご質問の中で難聴のある高齢者の方々に対しても用いられる可能性を提案させていただく機会もありました。１つの福祉用具、アプリケーションの特性を理解し、様々な対象者を想定し心身機能とともに適応を考えられる事が作業療法士の強みであり、その点もアピールとしてお伝えさせていただきました。

また、隣接するブースでは音声が文字出力されるアプリケーション画面がクリアガラスの出力パネルに表示され、リアルタイムで会話が見えるデモンストレーションも行われていました。会話がその場で美しく映し出され、全方向から「見える」というのは貴重な体験でした。またコロナ禍以来積極的に使われているZoomの機能にもオンラインの会話内容が文字出力されて表示される機能が搭載されており、手話通訳のための画面設定が出来るなど、身近なものからアクセシビリティが推進されている事も実感することが出来ました。

ブース全体を通して各企業からの問い合わせも大変多くいただき、新たに作業療法が参画していくべき分野開拓に繋がる機会ともなりました。一般企業からの問い合わせとして多かったのが、ｅスポーツ事業への参加に伴うデバイス、スイッチ開発の助言や、アプリケーションの活用の可能性、療育場面でのコミュニケーションデバイスの活用方法（主に発達を推進する観点のもの）などでした。まだまだ作業療法士が参加していくことができる事業、知識が求められる分野の多さに改めて気付かされる機会ともなりました。こういった声１つ１つに耳を傾け、ニードに合わせて他企業で協力、連携していくことも協会としての新たな動きとして幅を広げていくことができる可能性を感じました。作業療法士は皆さん低姿勢で謙虚な方が多い印象ですが（そこも素敵ですが）、仕事の認知度を高めていくためにも、今回を１つの機会にしたいと感じております。



私自身、今年度より立ち上げられたeパラスポーツ委員の一員として、大変興味深い展示でした。また、発達分野に関わるものとして、お子様が社会へ参加し、役割を持てるように関わっていく必要性をより一層感じました。高齢化社会という日本を支えていく働く人材の支援、社会に参加していく支援を発達、精神、身体分野全体で取り組んでいくことがこの職業である我々の使命であると改めて感じ、このような機会をいただけ、新たな学びの機会となりました。

第50回 国際医療福祉機器展H.C.R.2023 福祉機器相談コーナー 報告

福祉用具部　**山下久美子**

（2023年９月27日（水）～29日（金）の３日間（Web展は８月28日～10月30日まで）、東京ビックサイト東展示ホールで、第50回国際医療福祉機器展H.C.R.2023が開催されました。）

今年度は、出展社数が380以上と多くの企業が参加され、大変に活気に満ちており福祉用具の祭典といった様相でした。個人的にはeスポーツのブースや、コミュニケーション関連機器などICTの目覚ましい進歩が印象深く感じました。今後益々ICTと福祉など、違う分野の交流が進み、新しい技術や製品が創造されていくことを期待してやみません。

日本作業療法士協会では、昨年同様「福祉機器相談コーナー」を「NPO法人自助具の部屋」と共に一つのブースで運営しました。相談員は、都士会福祉用具部、神奈川、千葉の各県士会より１日４名体制で、相談件数は３日間で計42件でした。来場者の相談は非常に多岐に渡り、相談員だけでなく自助具友の会の皆さんと一緒に知恵を持ち寄り相談に対応しました。

また、福祉機器相談コーナーに台湾、香港、ケニアの作業療法士の方がブースに来て声をかけてくださることもあり、あらためて世界規模の展示会だと実感しました。海外の作業療法士の方々とより深く話し合える語学力を身に着けたいものです…。

新たな福祉用具の発見だけではなく、新たな出会いの場でもあると思いますので、皆様も是非、来年度参加してみてはいかがでしょうか。

教育部からのお知らせ

【身体障害領域　基礎研修】

●日時：３月９日（土）18：30～20：00、研修方法：オンライン

●テーマ「高次脳機能障害を呈した対象者へのOTとしての関わり～急性期・回復期・生活期での事例を通して考える会～」

●受講料：1000円

申し込みは年明け以降、都士会HPにて掲載します。

子ども委員会活動報告

子ども委員会　**加納　佳典**

９月10日（日）に『学校×ＯＴ～外部専門家連携の実際～』と題して、久しぶりに対面の研修会を実施しました。当日、体調不良等で欠席される方もおられたなか、16名の参加を頂きました。内容について、作業療法士の酒井先生から「外部専門家の流れについて」、教育庁特別支援教育課の伏見先生から「東京都の特別支援教育の現状と課題～専門家連携にのぞむこと」についてお話を伺うことができました。酒井先生からは東京都における外部専門家導入事業導入の流れや協働的コンサルテーションなどについて説明され、作業療法のよさを活かすためのポイントが示されました。伏見先生からは近年の教員採用の現状、都立特別支援学校外部専門員制度成立の経緯、個別最適な学びと協働的な学び、等について説明され、様々な職の専門性発揮と協働がなお一層重要になるとのお話がありました。現在、私は特別支援学校で教諭として働いていますが、外部専門家の先生方に求めることは、職業観や価値観は違っていても、一緒に何に取り組んでいけるか考えること、教室の環境や対象となる児童生徒、保護者や同僚のなかで働く担任の先生の仕事について理解され、個別性や専門性に特化し過ぎないで欲しいという点です。特に作業療法士の先生方に求めることは、広い視野をもって小さなニーズや課題を拾い上げること、課題を解決するためのつながりを支援してくれることです。今後も対面の研修会が増えてくると思います。新しい発見や問いが芽生えるような研修会や企画を考えていきますので、今後の子ども委員会の活動に御期待下さい！

いざ、地域づくりサポーター、地域活動へ

地域づくり共創部副部長　**中谷　美季**

地域づくり共創部では、昨年２月に地域づくり人材育成研修・基礎編をオンラインで開催し、それ以降、毎月オンデマンド配信を行っています。研修を修了された都士会員、および免除申請をされた都士会員の皆様には、地域づくりサポーターとして登録して頂き、現在は、地域リハにおける様々な情報をメール配信しております。

それぞれの区市町村で、作業療法士の活動状況は異なりますが、私が活動している地域では、早速、地域づくりサポーターに協力して頂き、一緒に地域ケア個別会議や住民の集まりに参加して頂いております。活動を一緒に支えてくれる人が増えると、一人では思いつかなかったアイデアが出てきたり、支援のバリエーションが増えたり、とても心強いです。

私たち地域づくり共創部では地域と地域づくりサポーターを繋ぐお手伝いをしておりますが、地域づくりサポーターに登録された皆様には、実際に活動に参加できなくても良いので、「○○区で活動しているOTはいますか？」とか、「△△市で活動したいのですが！」、等々お声をあげて頂けると幸いです。

地域づくり研修は基礎編、実践基礎編、実践編と続き、既に地域で活躍されているOTの方々に講師としてお話頂きますが、一番の学びとなるのは地域に実際に出ることではないでしょうか。

ぜひ、地域活動へ一歩踏み出してみませんか。

認知症の人と家族の生活支援委員会活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会委員　**田中ゆい子**

高齢者の健康維持と、自立して地域で暮らし続けることを支援するため、９月３日、東京新聞主催の“東京新聞ヘルスケアメイツ”に参加してきました。当イベントへの協力は、今回で３回目となり、理学療法士協会では運動プログラムの実施、当委員会は、新聞記事を用いた回想法を実施してきました。当日、委員は、グループの中のファシリテーターとして回想法の進行を行いました。イベント参加者の高齢者の方の中には、ボランティアとして司会の進行やファシリテーターの役割を担って頂きました。回想法に用いた新聞記事は、参加者の方に事前にアンケートで興味のある記事が選ばれました。内容としては、安田講堂事件、モナ・リザ展、チャールズ皇太子ダイアナ妃結婚、チェルノブイリ原発事故、地下鉄サリン事件、1975年のテレビ欄がありました。それぞれの新聞記事を読み、思い思いに当時の思い出やご自身の経験を振り返りました。新聞記事がきっかけで当時のことを思い出し、お互いに共感しあえる場面もあり、グループ内で笑い声も聞こえてきました。特に、テレビ欄は、当時から現在まで続いている番組の発見や、好きだった歌手・俳優、ドラマの話題で盛り上がりました。東京新聞の担当者の方と、後日振り返りも実施し、改善点や今後の定期開催に向けてのボランティアの方との進行の方法を話し合い、次回12月の開催に向けて今後も活動を進めていきます。

今後の予定としては、12月３日、認知症アップデート研修を開催します。みなさまのご参加をお待ちしております。

認知症にやさしい本の紹介　VOL.41

川崎市立宮前図書館　館長　**舟田　彰**

『ボケ日和』

著/長谷川　嘉哉　イラスト/矢部太郎

タイトルが気になったのが第一印象であり、当初、私はあまり読む気にならなかった。但し、著者は認知症の専門医であり、公益社団法人「認知症の人と家族の会」の推薦本であった。そして、図書館では予約が多い。先ず読んでおこうと手に取った。著者自身も祖父が認知症であり、介護家族の時期を過ごしてきたようである。冒頭に「介護者の心と生活に余裕がなければ患者さんを笑顔にすることはできない・・・」という一文。患者さんファーストには抵抗があるという。患者を守るのは守る側に余裕がなければ患者は幸せになれない。私自身も父親の介護をしていた者として同感できるところが多々ある。この本を読み進めて行く中で、認知症の進行が春夏秋冬で段階ごとに変化する事例を交え、様々な認知症の人の行動から今、何を考え、何をしたいか。事例を通してわかる。私は父親と擦り合わせて、あの時はこうだったのかと思い返すことがあり、後悔するところもあった。認知症の専門医が数多くの来院者を見て、この場面でこのようなことが起こるということを本書が提示している。家族側の視点に立ち少しでも家族が救われるのではないかと思う。認知症の親の姿をありのままに受け止めるのは、つらいこととなるかもしれない。しかし、親子の役割を逆転させ、事実を受け入れ、自分が親を守り、“さらりと笑う”ことが必要。家族介護で、事前の知識を得て備えるという視点に立つために必要な一冊。

保険部　Letter　～運動量増加機器の保険適用について～

保険部　**永吉　隆生**

厚生労働省の患者調査では日本における脳血管疾患の患者数は174万人以上に達し、患者がより自立した日常生活を送るために、リハビリテーションが必要とされている。脳卒中ガイドラインにおいて、麻痺側上肢の運動量を増やすことが推奨されており、運動量の増加を促進する上肢用ロボットが開発・導入されている。2020年度の診療報酬改定では運動量増加機器加算が新設され、ロボット機器を用いたリハビリテーションの診療報酬の算定が可能となったため、以下に紹介する。

施設基準：脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）又は（Ⅱ）に適合している保険医療機関
算定点数：月１回に限り150点が所定点数に加算

保険適用となっている上肢用の訓練装置

製品名	企業	特徴
DIEGO	インターリハ株式会社	3DとVRによる目的に合わせたリーチ等の動作訓練が可能
AMADEO	インターリハ株式会社	手関節・手指運動の訓練とMAS・ROM等の評価が可能
MELTz	住友ファーマ株式会社	AI解析で患者の運動意図を推測した動作の支援が可能
肩関節訓練装置フィジボRTD GH-1200（旧製品名CoCoroe AR2）	オージー技研株式会社	上肢の免荷機能と電気・振動刺激による自動運動の訓練が可能
前腕回内外訓練装置フィジボSPTD GH-1100（旧製品名CoCoroe PR2）	オージー技研株式会社	電気・振動刺激による前腕回内外運動の訓練が可能
ReoGo-J	帝人ファーマ株式会社	２-３次元の動作を組み合わせた17種類の訓練が可能

東京都作業療法士会福祉用具部主催
《福祉用具部研修会のご案内》

ADLシーン別研修は2017年から開始し、トイレ、浴室など様々なシーンで福祉用具の使用方法を学んできました。

シーン別研修は１周しましたので今回再び「居室・寝室編」を実技中心で開催いたします。

「ADLシーン別研修　『居室・寝室編』」
～起居・移乗に関する福祉用具の基礎と使用方法～

☆対　　象：日本作業療法士会会員かつ、東京都作業療法士会の会員、または他県士会の会員
☆参　加　費：1,000円（東京都作業療法士会会員、他県士会員）それ以外　2,000円
☆開 催 日 時：2024年２月10日（土）　９：30～16：00予定（受付９：15～）
☆OT協会基礎ポイント：２ポイント付与
☆場　　所：東京都立大学　荒川キャンパス　　校舎棟３F　看護実習室１
☆定　　員：30名（先着順）動きやすい服装で起こしください
☆内　　容：・ベッドズレ体験、圧迫の除去、シートを使用しての上方移動方法の習得
・移動用手すり、床から立ち上がり用手すり体験、移乗ボート、シートを使用して動作の習得
・リフト　※今回は「リフトの基礎」が中心、リフトの注意点、スリングシートの選定、様々なスリングシートの体験
来年度は、実践編として様々なリフトメーカーにお越し頂き体験型の研修会を予定しています。
☆申 し 込 み：イベントペイ　下記URLまたはQRコードから
U　R　L：https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5238587945919649&EventCode=P583315836
☆申 込 締 切：2024年２月３日（土）
☆問い合わせ先：tokyo.ot.yougu@gmail.com

レーシングシミュレーターの紹介

自動車運転と移動支援対策委員会理事　台東区立台東病院　**楠本　直紀**

本号での特集にも組まれていますが、先月９月27日-29日に国際福祉機器展が東京ビッグサイトで開催されました。最新の車椅子や歩行器、福祉車両など、移動支援に関わる作業療法士として、多種多様な福祉機器の知識を持ち合わせることの必要性を感じる日々でした。その中で、エンジョイアクティブゾーン“Gotcha！”で展示されていたバリアフリーe-sportsの「レーシングシミュレーター」を簡単に紹介したいと思います。

私自身、［移動］について考えるとき、「買い物に行きたい」「旅行に行きたい」などの何か目的となる［作業］のための移動をイメージしてしまいがちです。しかし、レーシングシミュレーターで提供しているのは、［移動・運転］自体を［目的としての作業］として捉える視点です。「障害があっても自分自身の運転で時速200㎞を体験したい」そんな想いから、テクノツールさんではe-Racing Projectとして肢体に障がいがあっても操作ができるレーシングシミュレーター（シミュレーターレースを行う機器）の入力装置を開発しています。開発したデバイスを用いることで、運転が好きな重度肢体不自由者がシミュレーターレースに参加することができます。写真はその様子です。皆様も興味を持っていただければと思い、簡単に紹介させていただきました。

就労支援委員会からのお知らせ

就労支援委員会　**谷本佳代子**

回復期病棟での就労支援から、地域での就労支援へ

私は、現在就労移行支援事業所にて、作業療法士として就労支援に携わっています。昨年まで、回復期病棟で就労支援に携わっていましたが、「もっと就労支援に専門的に関わっていきたい！」と感じ、就労移行支援事業所へと移りました。

すぐに感じた回復期病棟との違いは、一人と接する時間と利用者情報の少なさでした。回復期病棟では、入院と同時に患者さんの事細かな情報がすでに手元にあり、患者さんとは毎日リハビリの時に１対１で関わる時間がありました。どれだけ恵まれていた環境だったのだろう。と、感じると同時に、地域での支援だからこそできるアセスメントのとり方や、関わり方があると考え、日々の支援に励んでいます。まだまだ経験は浅いですが、地域の中で、“OTだからできること”を探求し、精進していきたいです。

「就労支援委員会主催 オンライン事例検討会」開催のお知らせ

就労支援委員会では、オンライン事例検討会を開催しております。

当日は、就労支援委員会メンバーが事例を挙げ、就労支援委員会メンバー同士が支援方法などについて検討を進めていきます。参加者の方には、委員同士の事例検討をお聞き頂きながら、就労支援の実際を感じて頂きたいと思います。

終了後には、日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。みなさんのご参加お待ちしています。

日　　時：2023年12月８日（金）19:00 - 20:30
締　　切：2023年12月６日（水）17:00まで
開催方法：オンライン（ZOOM）
参 加 費：無料
定　　員：10名
申し込み：こちらのURL→https://forms.gle/FHpij3a8m6NEVxS59
　　またはQRコード、東京都作業療法士会ホームページよりお申し込み下さい。

災害派遣精神医療チームDPATについて

保険部　野口　僚子

東京都作業療法士会は、OT協会や東京都三士会をはじめ、医師会やJRAT（日本災害リハ支援協会）などと連携しながら災害リハ支援を行っていきます。そこで今回は、災害時に連携する団体の１つでもある災害派遣精神医療チーム（DPAT：Disaster Psychiatric Assistance Team）をご紹介致します。
災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）に比べて、知名度が低い存在かもしれません。

DPATは被災した精神科病院の支援や、被災者の精神疾患発症予防のための精神科医療を行う専門的チームです。

自然災害だけでなく事故や犯罪事件なども対象として想定されていること、一般市民や支援者のメンタルケアも支援対象であることなど、DMATと異なる特徴が多数あります。

下記の表はDPATとDMATの違いです。

	災害派遣医療チーム （DMAT）	災害派遣精神医療チーム （DPAT）
対象	災害や事故により緊急治療が必要な負傷者	被災した精神障害者、被災地の住民・支援者
活動期間	発災直後から48時間を目安に活動 大規模・長期化の場合は二次・三次チームが派遣される 被災地の医療体制が復旧しない場合などは、日本医師会災害医療チーム（JMAT）へ繋ぐ	１週間（移動日２日・活動日５日）が標準 必要があれば数週間～数か月継続して派遣される
チーム員の構成	医師・看護師・業務調整員	精神科医・看護師・業務調整員を基本とし、必要に応じて薬剤師・保健師・精神保健福祉士などが追加される
活動内容	災害現場でのトリアージ・救命救急	精神科医療の提供・支援者の精神面での支援
活動場所	災害現場	救護所・避難所・仮設住宅など
日本国内での初出動	2004年10月　新潟県中越地震	2014年８月　広島土砂災害

さらに詳しく知りたい方は、DPAT事務局の「DPAT活動マニュアル」をご覧ください。
https://www.dpat.jp/images/dpat_documents/3_220415.pdf

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

野村　哲朗

皆様こんにちは！当ブロックでは各区の活動も行っており８月４日に杉並区役所にて杉並OT連絡会の「第１回 ヨコにつながる会」を開催することが出来ました。初めての開催でしたがスタッフも合わせて32名のOTが集まってくださいました！杉並区でOTが従事している７施設がそれぞれの職場紹介をした後、グループに分かれ座談会を行いました。閉会後も談笑は続き、和やかな会になりました。連絡会では今後も継続し、同じエリアで地域課題も共有できたらいいな、杉並を盛り上げたいなと考えております。次回の予定が決まりましたら都士会ホームページ等でお知らせします。他の区の方も大歓迎ですのでご興味のある方は是非ご参加ください。西部西南部ブロックでは､各区で勉強会や顔合わせをする取り組みをしています。少しでも､気になる！自分もつながりを持ちたい！そんな思いをお持ちのOTの皆さま…ブロックのアドレスまでお気軽にお問い合わせください。（seibuseinanbu.ot@gmail.com）

区西北部ブロック

森本　美和

皆様こんにちは。森本と申します。私は都士会では、ブロック委員、地域づくり共創部、広報部を兼務しております。日頃の業務で時間がとりづらいことがありますが、ブロック活動や各部の活動の中で、職場以外の方々との情報交換や交流が大変勉強になるとともに励みになっています。当ブロックでは、来年度の都学会に向けて準備をはじめました。９月末に初回の顔合わせをしましたが、内容はこれから運営委員で話し合いながら進めていく予定です。運営委員を通じて自己成長にもつながるのではないかと期待しております。来年度は第20回という節目の学会です。より多くの方のご意見やお知恵を集結し、有意義な学会にしたいと思っておりますので、ぜひ運営委員やブロック委員として参加したいという方がいらっしゃいましたら、ご連絡いただけると幸いです。ブロック委員一同、心よりお待ちしております。
（連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com）

区東部・東北部ブロック

熊代　有希枝

私は１月にリハビリテーション病院から老健に異動しました。新しい環境に慣れるのに苦労しましたが、ようやく自分自身の働き方や、学びたいこと、やりたいことを見つめ直す時間を取れるようになりました。おかげさまで、忙しいながらも充実した日々を送っています。皆様の中にも、転職や子育て等で生活の変化を経験したという方もいらっしゃると思いますが、そのような時は、新しい環境や生活に適応するのが精一杯で、自分自身の内面に目を向ける余裕がないのではないでしょうか。

当ブロックでは「ママパパOTのなやみ」という研修を12月に開催予定です。今回は子育てをしている方の悩みを共有しながら、ご自身の働き方やキャリアの考え方の理解を深めたり、考えたりする機会をご提供できたらと考えています。子育てをしている方だけではなく、これから子育てに入っていく世代の方や、子育て中のママパパOTと一緒に働く方、働き方に迷っている方など、どなたも本研修の対象です。アーカイブもありますので、お気軽にご参加ください。詳細は都士会ホームページまで。

区中央部・南部・島しょブロック

上原　亮介

このブロックは８つの地域により構成されている中、先日より大田区のリーダーを務めさせていただいております。市区町村による事業が近年増えてきており、ブロックを細分化した各市区町村ごとの職能団体として動きが重要になってきていると感じます。そして通所型Cや訪問型C、地域リハビリテーション活動支援事業などの総合事業以外にも、都からの依頼事業も増えてきています。そのひとつとして大田区では認知症事業が始まっています。この事業は認知症当事者やご家族などに対するアクティビティや予防講座などを提供するといったものです。そして現在はブロック委員の協力をいただきながらこの事業を担い始めています。ブロック委員は士会活動だけでなく、地域におけるOTとしての関与も今後増えてくるのではないかと思っています。病院や施設から飛び出すのは不安だけど、今の職場にいながら地域でのOTに関わってみたい方、ブロック委員としていっしょにより良い地域を作っていきませんか？お問い合わせをお待ちしております。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

原田　祐輔

これまでにも何回かご紹介をしておりますが、北多摩ブロックではブロック内（外）の作業療法士の交流の場として座談会「ツドイノバ」を定期的（継続的）に開催しています。各回、興味深く面白いテーマは何かを捻り出しながら､それに縛られない「自由に会話や交流ができる場」としてこれからも継続していく予定です。

［過去のテーマ］

第一回「繋がろう！北多摩OT！」、第二回「コロナとOT」、第三回「作業療法の本質って何？」、第四回「精神科OTと身障OTの違い・共通点」、第五回「お世話になった作業」、第六回「OTらしい教育って」、第七回「じっくり語ろう！ツドイノバ」、第八回「拒否」、第九回「集まれ新人OT！」、第十回「集まれ！パパママOT！」

＊延べ10回、参加者数 約230名。全てオンライン開催。
そして、第十一回目は初めての対面開催を企画しています。古民家を借りて、ゆっくりとざっくばらんに話せる場を設けたいと思っています。
2023年12月16日（土）14時～17時（途中参加・退室可）
「初心に戻ろう！私のOTの原点！！」+懇親会・忘年会
＊詳細は都士会ホームページなどでお知らせいたします。ご興味のある方はどなたでもご参加可能です。是非、ご検討ください。
連絡先：ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

上野、平賀

八王子では、秋を感じるいちょう祭りが数年ぶりに開催されました。当ブロックでは、脳卒中フェスティバルの代表・副代表の方をお呼びして、10月19日に「明日から活かせる！脳卒中フェスティバルから学ぶ、当事者の視点」というテーマでオリジナル研修を行いました。脳卒中フェスティバルの活動や若手リハスタッフへのメッセージをお話頂きました。退院支援に自信がない方、地域リハに興味がある方にご参加いただき、大変盛況のうちに閉幕しました。明日からの臨床に早速活かしていける内容でした。　脳卒中フェスティバルの活動にご興味のある方はこちら！⇒ https://noufes.com/

また12月３日には認知症アップデート研修も予定しております。こちらもご興味のある方は是非ご参加いただければ幸いです。　ブロックメンバー大募集！ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。

⇒ swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

事業部活動報告

事業部　西原将太/伊藤啓史

枯葉舞い散る季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。事業部では夏頃より養成校と協力してオープンキャンパス企画を行っています。久々の対面での参加となり、私個人としては初めての対面での参加となりました。高校生にとって人生のターニングポイントとなる状況での交流は責任が大きい一方で、きらきらとした高校生と関わることで自分の10代を振り返り、初心を思い出させてくれました。当日は「作業療法士の職域」の話や、「理学療法士との違い」など参加者からの質問に回答しました。作業療法士の魅力がどうやったら伝えられるのか、日々熟思しながら答えを模索しています。

もう１点、事業部では「＃作業療法の日」を様々な形で盛り上げようと企画しております。「作業療法の日」は日本作業療法士協会が設立された９月25日です。事業部では、Instagramを通して発信を継続して行っております。

今年は、イラストレーターでもある「OTナガミネ」さんの漫画「おじいちゃんの宝物」を紹介しています。ぜひ多くの方に見ていただきたい漫画です。９月25日から毎日１ページずつ更新しており、執筆時現在も掲載中です。フォロワーも執筆時点で237名と、３年前の開設時から、たくさんの方にフォローを頂く事ができました。たくさんの方に見て頂いていると思うと、より一層活動に力を入れる事が出来ます。是非、まだご覧いただけていない方、よろしければ、「いいね」と「フォロー」をお願い致します。

編集後記

今月号では福祉用具部さんの協力もいただき、国際福祉機器展の報告をたくさん掲載しました。福祉用具は「あると便利」というレベルから「革新」と言えるような、10年前には想像もできなかった様な暮らしを提供してくれるものまで、その市場規模は年々拡大しているかと思います。自信を持ってクライエントに紹介できるOTになれるように知的探究心を忘れずにいたいと思います。

広報部部長　水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会　事務局
〒160-0022　東京都新宿区新宿５－４－１　新宿Qフラットビル501号室
TEL：03-6380-4681　FAX：03-6380-4684
◆東京都作業療法士会ホームページ　http://tokyo-ot.com/
◆東京都作業療法士会ホームページ窓口　postmaster@tokyo-ot.com
※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。
ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。